

「公的統計の整備に関する基本的な計画」の変更について

－公的統計への信頼回復に向けて－

2020年5月1日
北村行伸統計委員会委員長談話

まず、新型コロナウイルス感染症に罹患され、現在も治療生活を余儀なくされている方々、そして、感染拡大の影響を受け、日々の事業や生活において多大な困難に直面されている方々に心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになった方々に心から哀悼の意を表させていただきます。また、多数の感染者の診断・治療に当たっておられる医療従事者の皆様、国民生活に必須の物品、サービス等の供給、流通に携わっておられる皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、本日、統計委員会は、「公的統計の整備に関する基本的な計画」（基本計画）について、高市総務大臣に答申いたしました。

今回の基本計画の変更は、2019年1月に明らかとなった統計業務の不適切事案を発端として失われた公的統計に対する信頼を回復するため、速やかに取り組むべき事項を盛り込むことを目的に、現行の基本計画（第Ⅲ期基本計画）を一部変更するものとなります。

本日に至る統計委員会の取組を振り返りますと、公的統計において様々な問題があったことは大変に遺憾な事態であり、統計委員会として、速やかな全容把握を行い、今後必要とされる取組や将来的な方向性を提言することが、公的統計に関する審議機関として必須と認識しました。そこで、2019年2月に点検検証部会を設置して、全ての基幹統計及び一般統計調査に関する点検・検証を行い、同年9月には、「公的統計の総合的品質管理を目指した取組について」を取りまとめて、再発防止策に関する諸方策を含む建議を行ったところです。

この建議なども踏まえ、「統計行政の新生に向けて～将来にわたって高い品質の統計を提供するために～」を取りまとめる等、総合的な対策が提示されたところであり、これらの内容を第Ⅲ期基本計画に反映させるように、今回の諮問があったものと受けとめました。

統計委員会では、公的統計の信頼回復を着実なものとするため、速やかに基本計画を変更することは適当であると考え、短期間で集中的に審議をしました。この審議を通じて、①PDCAサイクルの確立を始めとする公的統計の品質確保に向けた取組の強化、②統計の重要度に応じたメリハリのある管理、③各府省の統計部局が中心となり、他部

局に対する広範な技術的支援の実施、④公的統計のプロとしての専門性を有した統計職員の人材確保・育成といった取組が重要であることを確認しました。今後、総務省や各府省がこれらの取組を確実に実行し、それにより、国民に信頼され、国民の要求に応える統計行政が確立・推進されていくことを期待しております。

そのためにも、今回の基本計画の変更が掛け声倒れに終わらないように、統計制度を所管する総務省、そして、統計を作成する各府省が一体となって変更後の基本計画を着実に推進していくことを、政府に対して強く要請いたします。

今回の計画変更は、一連の経緯もあり、統計作成プロセスの改善に関する内容が少なくありませんが、GDP統計を軸とした経済統計の整備を始めとする統計改革の実現という第Ⅲ期基本計画の目標に変更はありません。統計を作成する各府省には、統計精度の確保・向上を基本としつつ、新しい社会経済の変化やニーズに対応した統計の整備の推進にも引き続き注力していただくことを期待しています。そのために、私ども統計委員会としては、これからも、総務省、そして、各府省における統計の改善に対して、様々な支援ができるよう、議論を重ね、意見を表明してまいりたいと考えています。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、統計調査を取り巻く環境は、類例のない困難な状況にあります。このような状況にあっても、社会・経済の実態を的確に捉えるための統計の重要性は変わるものではなく、むしろ、困難の中にある今こそ、現下の正確な状況把握のために、国民共通の情報基盤である統計の必要性は更に高まっているといえます。

一方で、統計調査の実施に関しては、調査に回答してくださる報告者の皆様の御協力はもとより、実査を担っておられる国及び地方公共団体、調査員や民間調査事業者の皆様の御尽力があって、初めて成り立つものです。このためには、報告者の皆様の健康と安全にも配慮しつつ、実査担当者・組織の健康と安全を担保する必要があります。関係者の皆様に改めて感謝を申し上げますとともに、政府にあっては、現下の情勢を踏まえ、調査が安全かつ円滑に行われ、報告者等の負担軽減はもとより、調査実施者における業務の見直しや実施体制の確保についても万全を期していただくようお願いいたします。

統計委員会としても、この困難な状況の中で統計に求められる期待や要請に応えるべく、統計技術の専門機関としての立場から、調査を実施する各府省と連携を図りつつ、しっかりとその責務を果たしてまいります。